



忘れはしない

思い出したら大きな声で呼んでください／打ち寄せる波に私の声が聞こえるでしょう／私は海に生きています／あなたは海の見えるこの町を離れないでください▼これは「海の見える町」の二番の歌詞である。3・11の大津波で町そのものが消えてしまった宮城県閑上出身の早坂泰子さんが、亡くなった息子さんを偲んで作った詩に、ギターひき語りの原莊介氏が曲をつけたものである。3・11のレクイエムであり、メロデーと一体になって心に切々と迫ってくるものがある▼熊本は前震、本震と震度7の激震に襲われ、さらに強い余震が続いている。生産から暮らしに至るまで深刻な影響を被った。農林水産業関係被害額は一〇八五億円(九日午前一〇時現在)と発表されたが、熊本県の農業産出額が三二五〇億円(平成二五年)からして、被害の程度が窺い知れよう▼熊本には多くの友人がおり、電話でお見舞いしてきたが、半分近くの人たちの口から発せられたのが「東北の人たちは本当に大変だった」「津波や原発事故がなくてよかった」という言葉である。被害が甚大とはいえ、最悪を免れることができただけでもよかったという▼これを聞いて思い出したのが、3・11の被災者が復興を急ぐ理由としてあげた話だ。「次の大災害が発生したら東北のことは忘れられてしまうから」と。印象が強烈で今も耳の奥に残る▼熊本の皆さんも、東北の皆さんも頑張ってください。3・11のことも忘れはしない。復興目指してできるだけの応援は惜しまないつもりだ。

(土着菌)